

論説

○日本の姉妹に告ぐ

万国婦人禁酒會書記

レビット

拜啓、かつて御約束申候儀に付婦人及びその事業に關する妾の卑考の二三を相認め寄送致候足下もし採るべき所ありとせば之を貴國の言辭に譯し足下の有益ある雜誌に掲げて日本の婦人方に御示しあらんとを願候

此等の事に關する妾が第一の考は左の如し曰く神は吾等婦人を造り玉ふとを可ありとし吾等の上に神の御心を置玉ふとを可ありとし吾等の中に種々の力を賜ふとを可なりとしてかく造り玉ひし上の吾等婦人の吾等が生存するとを男子に望むを要せず又神が吾等に賜ひし力を用ゆるとを男子に問ふを要せ

いと考ふるあり吾等はたゞ神に對して責任あり故に神に對して當に爲すべきとの何たるを問ひ申すべきのみ然らば神の御答吾等の上に直ちに降りて言すべし曰く汝等ハ汝等の爲に立てられたる道に隨ひて宜しく善き妻善き母とあるべし蓋しこれ婦人の爲すべきとの尤も宜しく且つ尤も高尚あるものなるべし然らばかのたゞ唇に紅し顔をかほよくし暇あるときその夫を慰むる如き婦人を目して之を善き妻と云ふべき平決して然らば又かくの如き婦人を目して之を善き母と云ふべき平妾ハ再び之を然らずと云はん

日本もし万国中に相應せる地位を取らんとせば先づ其國の婦人を教育せざる可らず蓋し此教育の途すてに開けたり然れども未だ之を進み了るにあらざる向後必らずやかの大學校の門前に達せざる可らず然らば人の最大の幸福を得ずして早く倒るゝに至らんとす然れども日本の婦人たるものろの政府が此教育の途を開きて數多の故障を取除くを待つてのち初て其路を歩むべしとする平安等が切望する所のものは敢て然らず日本に於て婦人にしてもし基督教が婦人を教育したるに於て西國に數多の犬且つ幸ある變化ありしとを知らば其身を一國民と做し又人の妻とし母として自ら興奮しよく其義務をつくし

p. 112

得べき程の愛國心を惹き起すべき也(未完)